

令和7年9月16日

実施報告書

文部科学大臣 殿

静岡県立美術館
館長 木下 直之

SOMPO美術館
館長 西脇 芳和

京都文化博物館
館長 山田 啓二

山口県立美術館
館長 道免 憲司

株式会社 毎日新聞社
事業本部長 藤井 剛

展覧会における美術品損害の補償に関する法律に基づいて令和6年6月26日に文部科学大臣と美術品補償契約を締結した展覧会が、この度終了しましたので、実施報告書を提出します。

1. 開催概要

開催施設名	会期	入場者数
静岡県立美術館	2024年7月27日～9月29日	18,201人
SOMPO美術館	2024年10月12日～12月28日	61,928人
京都文化博物館	2025年2月15日～4月13日	29,150人
山口県立美術館	2025年4月24日～6月22日	22,811人

●開催概要

※申請書に記載した当初の趣旨・目的等の達成状況について、データを提示しながら記入

※展覧会評・レビューがあれば、その出典・要旨を提示し、展覧会の客観的な評価を記入

都市景観画(ヴェドゥータ)の巨匠カナレット(1697-1768)の全貌を、アジアおよび日本で初めて紹介する展覧会として、スコットランド国立美術館をはじめとした英国各地のコレクションを中心に、国内外の油彩、版画、素描などの作品総点数 75 点を展示した。

展覧会は「カナレット以前のヴェネツィア」「カナレットのヴェドゥータ」「カナレットの版画と素描」「同時代の画家たち、後継者たち—カナレットに連なる系譜の展開」「カナレットの遺産」という5つの章で構成。18世紀の景観画というジャンルの成立過程を、カナレットや同時代画家のグアルディ、ペロツらの作品でたどりながら、その伝統を継承して新たなヴェネツィアのイメージを開拓していったモネやホイッスラーなど19世紀の画家たちの作品を紹介した。

『芸術新潮』(2024年8月号)、NHK『日曜美術館』(24年12月8日放送)、「読売新聞 美の葉」(24年11月6日夕刊)、「朝日新聞 美の履歴書」(24年12月10日夕刊)などに取り上げられ、カナレットや同時代画家、後継画家たちの作品を通じて、およそ3世紀にわたる風景表現の変遷をたどることができる展覧会と、評価を得ることができた。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

※申請書に記載した、補償制度活用による国民的利益(軽減された保険料の使途、効果等)の達成状況について、データを提示しながら記入

①入場料の無料化・軽減

【静岡】

高校生無料期間(8月9日～18日、10日間)

入場者数:236人

無償化された入場料:800円×236人=188,800円

【東京】

当初の想定よりも一般の入場料を50円、大学生の入場料を100円(オンラインは200円)軽減することができた。

入場者数:一般35,366人、大学生2,350人、大学生(オンライン)1,718人

軽減金額:50円×35,366人=1,768,300円

100円×2,530人=253,000円

200円×1,718人=343,600円

【京都】

当初の想定価格よりも一般の入場料を50円、大学生以下の入場料を200円軽減することができた。

入場者数:一般18,718人、大学生以下2,278人

軽減金額:50円×18,718人=935,900円

200円×2,278人=455,600円

小中高生無料期間(3月22日～30日、9日間)

入場者数:高校生164人、小中生146人

無償化された入場料:1200円×164人=196,800円

600円×146人=87,600円

【山口】

当初の想定価格よりも大学生の入場料を200円軽減することができた。

入場者数:183人

軽減金額:200円×183人=36,600円

予定軽減額合計:565万円 実績額合計:426万円

②展示作品の質・量の充実

本制度の適用を受けたことにより、下記の2作品の借用料、作品輸送費ならびに保険料に充当することができ、来場者に景観画の制作方法、ヴェネツィアの関連美術を紹介することができた。

・《レフレックス・カメラ・オブスキュラ》(オリジナル)(申請番号 No.53)

・ヴェネツィアンガラス作品の展示(6点、国家補償制度対象外)

予定軽減額:258万円、実績額 258万円

③教育普及活動の充実

若年層を含む幅広い来場者に対し、展覧会の理解をより深めるための展示映像などを制作したほか、下記の講演会や資料配付を実施した。

【全会場】

- 1)《レフレックス・カメラ・オブスキュラ》のレプリカを制作し、カナレットが景観図を描く際に、どのように実際の風景を取り入れたかの仕組みをより体感できる工夫をした。
- 2)作家や時代背景の理解を助けるための展示映像を2本制作し、上映した。

【静岡】

中高生と一般の方を対象としたカメラ・オブスキュラの制作イベントを実施した。参加型の展覧会理解の機会を提供することができた。

2024年08月24日(土)・25日(日) 各日 10:00～16:30

【東京】

- 1) 一般鑑賞者向けの対話型鑑賞会を休館日に実施した。
2024年11月25日(月) 14:00～16:00
- 2) 若年層向け無料鑑賞ガイドを制作し無料配布し、観覧者の展覧会主旨・内容の理解を深めることができた。

【京都】

- 1) 本展展示映像を監修した陣内秀信氏による特別講演会を実施した。
2025年2月15日(土) 10:30～12:00
- 2) 植田憲司氏によるカメラ・オブスキュラのワークショップを開催し、その仕組みを体感できる機会とした。
2025年3月22日(土)14:00～16:00
- 3) 子ども向けワークシートを制作し、無料配布し、若年層への展覧会趣旨・内容の理解を深めることができた。

【山口】

本展監修の千足伸行氏による特別講演会を実施した。

2025年4月26日(土) 14:00～15:30

予定軽減額:610万円、実績額 600万円

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

※ヒヤリハット事例とは、事故には至らなかったものの、事故となってもおかしくなかった一歩手前の事例をいう。文字通り突発的な事象やミスにヒヤリしたり、ハッとしたりするもの

山口県立美術館での作品開梱時に、作品1点の額のデコレーション部分が一部剥落した。作品自体への影響はなく、所蔵館の了承のもと、現地で修復家が該当部分の接着固定を行った。

4. 安全配慮に関する特別の対応

※事故を防止するために実施した特段の安全配慮(特に、輸送や梱包に関することや、展示に関して、他展にも参考となりうること)を記入

・海外輸送および各巡回会場間のすべての行程にクーリエが随伴し、主催者とともに細心の注意を払って輸送を行った。

・海外作品の集荷・返却時には、主催者が業務委託する現地の修復家らにより作品点検・梱包・開梱を行った。梱包時の写真撮影を全作品に行い、貸し手と借り手、双方での状態確認に努めた。

・展示・撤収作業時も、クーリエおよび日本側の学芸員がコンディションチェックを綿密に行い、必要に応じて作品やクレート、梱包資材の状態を撮影し、海外所蔵者とリアルタイムで共有を行った。第1会場の展示時には修復家も全作品のコンディションチェックに立ち会い、以降の会場でも必要な際に相談や即座の対応を取れる体制とした。

5. 紹介事例・今後の改善点等

※国民の優れた美術品を鑑賞する機会の充実という観点から、主催者の自己評価等を記入。その際、他の美術館の参考となる好事例や改善点等を積極的に記入

本制度の適用を受けるにあたり、過去の政府補償制度を活用した実績を示すことにより、英国各地に点在する貸主の日本側主催者に対する信頼度が増し、交渉が有利に進んだ面があった。結果として、英国 14 箇所の所蔵先から作品を集めてカナレットという画家を日本全国4会場で紹介できたことは、「広く国民にすぐれた美術品鑑賞の機会を提供する」という本制度の趣旨に合致する。

今後、他の展示会の企画時にも、本展での実績を活用し、優れた美術鑑賞の機会を国民に提供していきたいと考えている。

また、チラシや HP、会場パネルなどに、本展が本制度の適用を受けていることを記載し、来場者に対しても周知を行った。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名 毎日新聞社、静岡県立美術館、SOMPO美術館、京都文化博物館、山口県立美術館、スコットランド国立美術館

●収入

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入		万円 2,942
その他の収入		13,077
収入総額		16,019

●支出

区分	内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等 基本経費		万円 16,019
会場関係 設営・運営等 経費		0
支出総額		16,019